

牛受精卵AI解析システム

概要

- ・ディープラーニング解析技術を利用した牛体外受精卵自動解析大量生産システムを開発。
- ・システム利用で1回、最大1008個の受精卵観察が可能。
- ・年間最大 42336個 (年間42回・8日間培養の場合)の受精卵培養・解析が可能。
[20分間隔、8日間撮影(画像576枚/受精卵)、深さ5スタック(18μm)]
- ・受胎結果と受精卵解析結果を紐づけることで、【受胎予測】が可能となるよう研究開発中。

導入効果

- ・これまで生産者の目視により行ってきた受精卵観察を、タイムラプス観察装置にて観察・自動解析を行うことで受精卵へのダメージ軽減と出荷作業の効率化が可能。
- ・受精卵評価のばらつきがなくなり定量的・客観的な評価が可能。
- ・異常卵割など不良胚出荷を防ぎ、移植コストの低減が可能。
- ・良好胚の移植による受胎率・繁殖率の向上をはかり母牛の繁殖サイクルを増加。
- ・流産、死産など母牛に及ぼす影響を予防し、経済的ロスを減少。
- ・受精卵ごとに個別IDで管理し、出荷、移植、繁殖情報の管理を実現。

○対象品目

水稲	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	林業		その他

○該当するニーズ

項目	繁殖
技術ニーズ	種付け等
具体的なニーズの内容	体外受精卵の培養・管理を効率化する装置

○開発等の段階

開発/実証中	
モニター販売中	
一般販売中	○
その他	

☞連絡先

ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
IoT事業部 事業推進1部 畜産IoT課
TEL 050-3807-3175

お問い合わせフォーム

<https://support.sonymetwork.co.jp/IoT/web/form112.html>

情報記載日: 2019年12月13日

牛体外受精卵 タイムラプスイメージング

牛体外受精卵 AIクラウド解析

クラウドでの受精卵画像のディープラーニング解析

